

経営比較分析表（平成29年度決算）

宮城県栗原市 栗原市立若柳病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	ド訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
69,382	8,581	第2種該当	10:1	

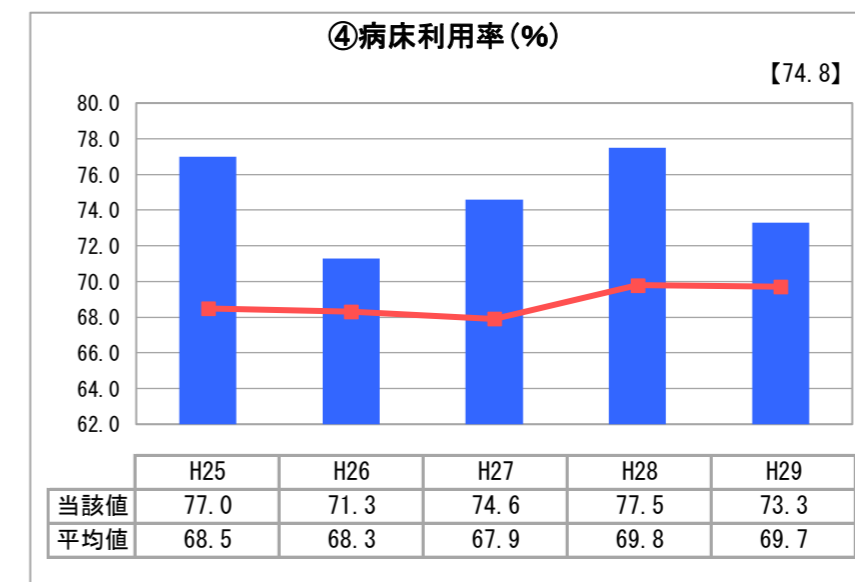
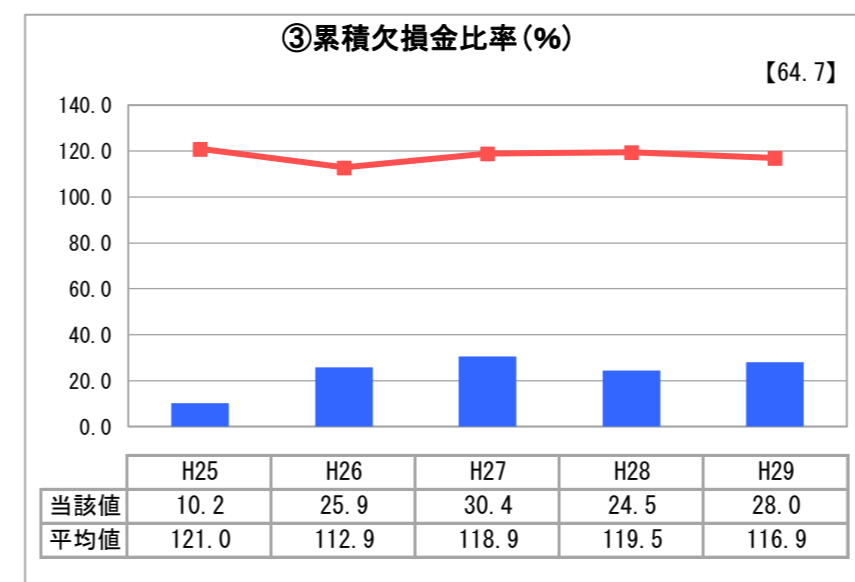
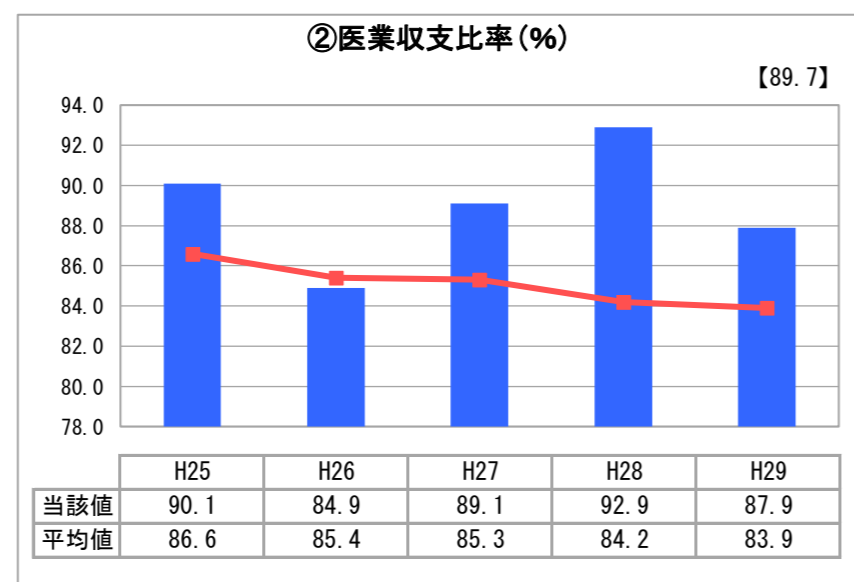
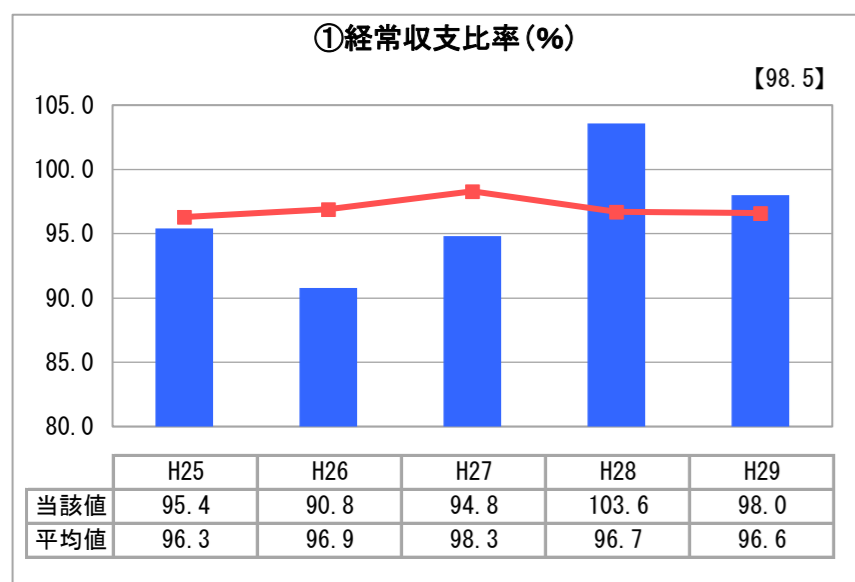
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
90	30	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	120
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
83	29	112

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

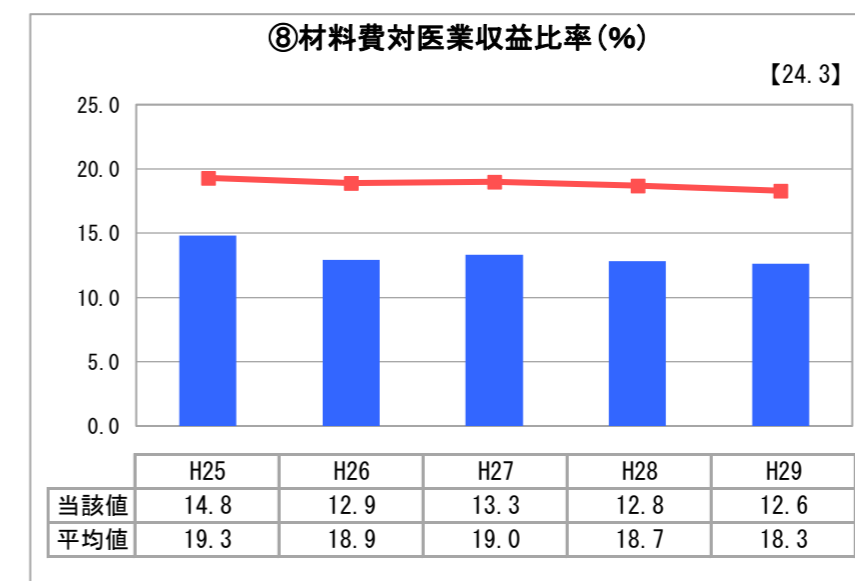
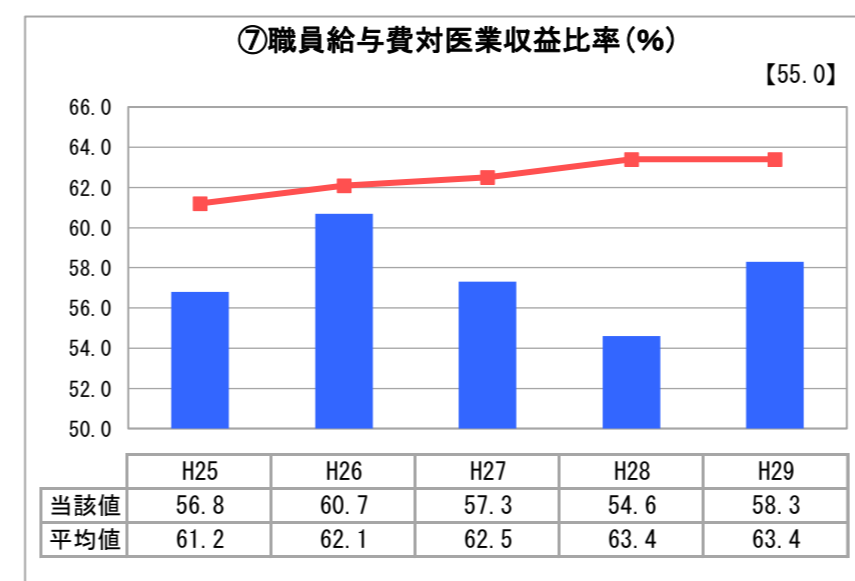
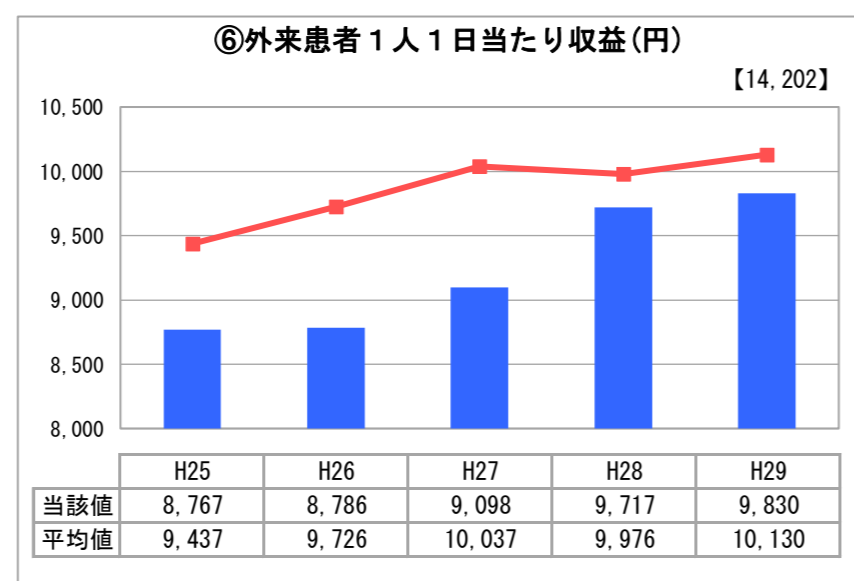
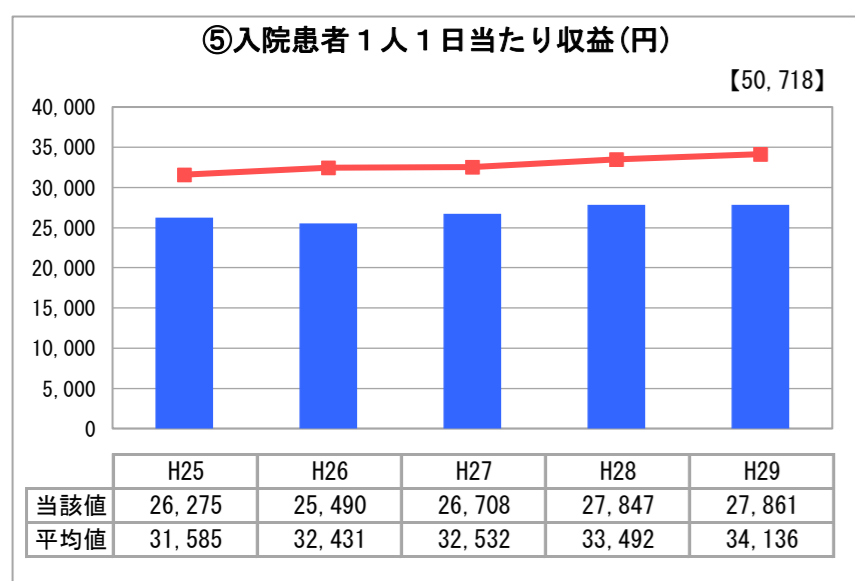


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



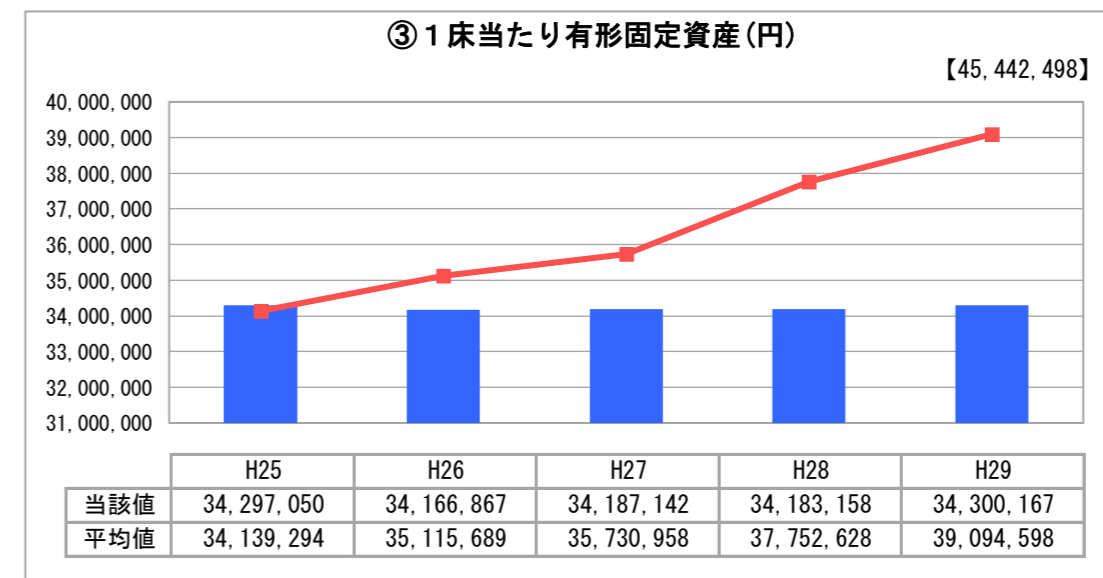
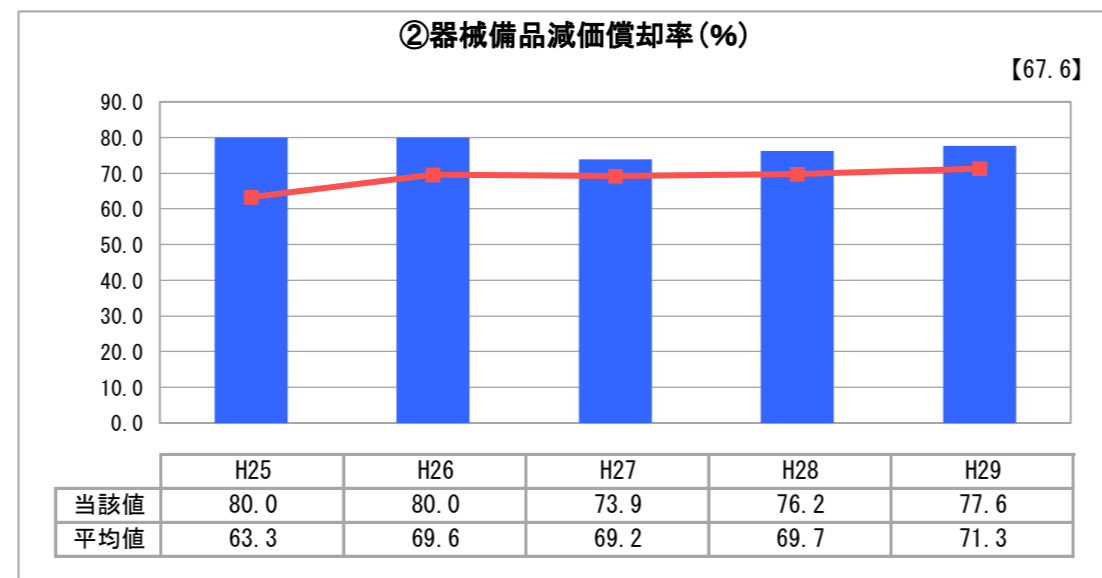
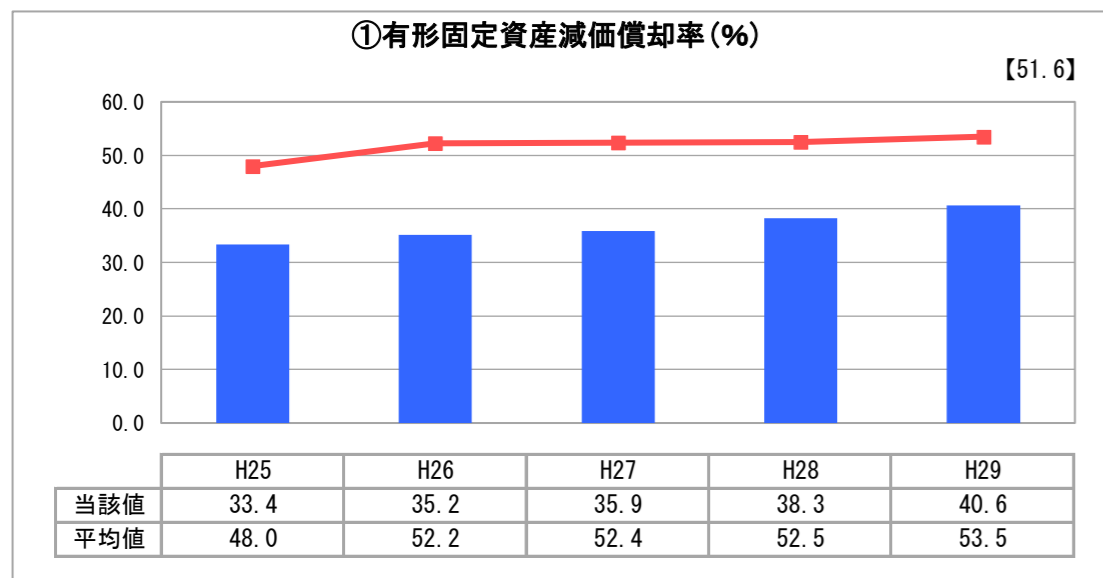
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「器械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

初期・慢性期・終末期医療、緩和医療の提供。
在宅療養支援病院として、在宅患者へ在宅医療・訪問看護・居宅介護の提供。
基幹病院からの回復期患者の受入れ施設としての役割。
可能な限りの二次急患への医療の提供。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率はH28に100%を超えH29は100%には届かなかったものの、平均値は上回った。
医業収支比率についてもH28に平均を大きく上回った。H28の診療報酬改定による在宅医療のプラス評価の影響が大きい。
病床利用率は5年間、70%以上で平均値も上回っている。

入院の1人1日当たりは、120床のうち30床が療養病床の影響もあり、平均より低くなっている。
外来の1人1日当たりは、平均値に近づきつつある。

入院外来とも更なる診療報酬確保へ向けて、施設基準の見直し等を行っていく必要がある。
職員給与費、材料費の対医業収益比率ともに5年連続で平均値を下回っている。

2. 老朽化の状況について

平成17年3月に開院し、13年経過し施設全体の減価償却の状況は平均値を下回っているが、器械備品については老朽化が見られる。

電子カルテ導入の計画や経費削減のため機器の購入を先送りしている部分もあるが、電子カルテ導入に合わせ、連携する部門システムの機器更新を必要がある。

病院本体についても、空調設備の定期的な修繕、外壁の補修・修繕が必要となってきている。

全体総括

H29年度末に医師2名の退職があり、後任が見込めない状況において、H30年度は経営的にも非常に厳しい状況が予想される。

常勤医師の招へいが喫緊の課題となっている状態が続いている。

また、常勤医師を含めた医療職の高齢化も課題となっており、負担軽減を進めるべく、電子カルテ・医療クラークの導入等の必要がある。

地域医療連携についても、更なる充実が望まれる。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。